

『つぎの 20 年，学会活動に期待する』

坂 口 順 治
(平安女学院大学)

この 20 年，わが学会は時代の先端に立って活躍してきた。頑固な教育界に挑戦し，教育行政にも影響を与えた。現在の生涯学習時代を予言し，実践を通して改革してきたことを健やかな誇りにしたい。

そして，いま，世界は情報技術革命の渦中にある。レジス・ドブレも指摘するように，グーテンベルグの発明以上の大メディア革命である。情報技術の革命は，思想，行動，組織，社会を変えていく。教育もインターネットのコミュニケーション・システムの発展によって，思想や価値も，学習方法や学習支援システムも変化するであろう。

21 世紀を見定めた今回のシンポジウムは，それぞれ違った立場から生涯学習のあり方を論じ合い，示唆に富む成果を得た。山本氏は，大御所らしく文教政策に関わりながら，教育・学習システムの新しい整備の必要性和課題を提起し，「関係」の時代になることを予見した。野崎氏は，民間教育産業の立場からカルチャー・センター活動は法人化，公設民営化へ，そして，高齢化と男性対策の学習課題が必要だと述べた。これは女性のリーダーシップ時代を暗示した提言だった。田中氏は，自己組織性とイメージの共有をキーワードに，与えられる設備よりも，住民の積極的参加で創りだす共有のイメージによって，地域づくりと生涯学習システムの構築を説き，学習者の主体的参加の促進を強調した。

三人の発題を通して感じたことは，生涯学習の主題は愚直なまでも「人間はいかに生きるか」という問いかけを，生涯にわたって対話することであり，それを援助するシステムづくりであると再認識した。

21世紀の生涯学習は、コミュニケーション・ネットワーキングの拡大と深化である。情報メディアの革命によって、地球市民の連携促進をはかるとともに、人と人との直接的な五感コミュニケーションの交流によって学習が充実する。その学習触媒としての学会活動が、新しい時代を創造する。次代を担う学会員の創造的活躍に期待するもの大である。